

2025 年度

公益財団法人 高柳健次郎財団

高柳健次郎賞・研究奨励賞・科学放送高柳賞



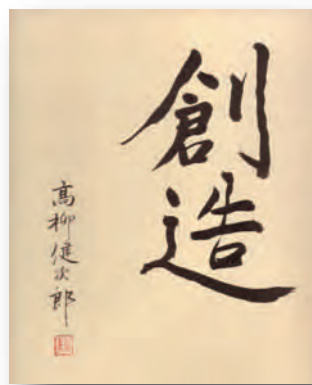
恒に夢を持つこと
志をすてず
難きにつく

昭和38年1月3日

高柳健次郎



高柳健次郎 書斎にて



よい科学者、お術者である
またよい人間であれ
高柳健次郎

設立

故高柳健次郎氏が文化勲章の授章に際して、「決して私一人の力で成しえたことではありません」と謙虚に述べ、「初期の研究過程において、研究費の不足に困ったとき助けられた有難さを今も忘れることがない」と感謝の気持ちを表している。そして、これまでに多くの方々から受けたご恩に報い、併せてわが国の電子科学技術の振興に些かなりとも貢献できればと念願し、設立されました。



高柳健次郎の功績 「世界で初めてブラウン管による電子表示に成功」

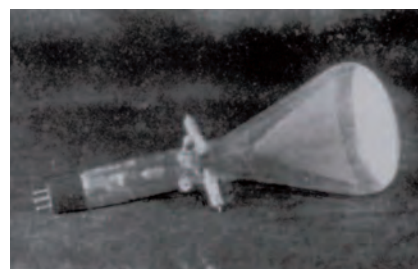
高柳健次郎博士は、電子式テレビジョンの実現を目指して研究し、1926年12月25日に世界で初めてブラウン管を用いて電子映像表示に成功した。

当時、イギリスでは、1925年にベアードが送受信ともニポールの回転円板を用る機械式テレビジョンの実験に成功、翌年には機械式テレビジョンの公開実験を行っていた。他方、米国、欧州各国などでもテレビジョンの実現に向けた様々な試みが行われていた。

高柳は、機械式では精細な画像表示ができないと判断して、映像を電子的に撮像・表示する電子式テレビジョン技術の開拓に挑戦し、浜松高等工業学校で研究を進めた。1924年12月に電子表示のために独自に開拓した熱陰極ブラウン管の試作を芝浦電気(株)(現東芝)に依頼した。撮像はニポールの円盤で画像を走査し、高速電子回路を開拓して電子映像を作った。1926年12月25日、雲母板上に書いた「イ」の字を、世界で初めてブラウン管上に電子的に表示することに成功した。時あたかも大正天皇が崩御され、その号外新聞発刊の鈴の音を聞きながらであった。こうして、世界初の電子式テレビジョン受像器を実現、それはまた、世界初の電子映像表示装置(ディスプレイ)の達成であった。高柳は1927年には真空管式の撮像管の特許出願を行うなど、その後は電子式テレビジョン放送の実現・発展に貢献した。

他方、アメリカでは、1927年、フィロ・ファーンズワースが電子式テレビジョンの特許を申請し、1933年にツボルキンがアイコノスコープ(撮像管)を発明し、受像には高柳が達成したブラウン管方式が用いられて、電子式テレビジョンが開拓されていった。

現在、高柳が開拓した電子映像ディスプレイは、テレビジョンの映像表示のみならず、電子機器の発展につれて「人間と機械の対話装置」へと発展し、パソコンやスマートフォンなどの情報通信端末のキーテクノロジーに進化し、現在の情報通信技術社会の発展を支えている。



「イ」の字の表示に用いられたブラウン管

● 目的・事業

当法人は、電子科学技術に関する独創的な研究開発に対し研究助成を行い、また優れた研究業績者を表彰することにより、わが国の科学技術の振興に寄与し、豊かな社会の創造に貢献することを目的としています。その目的を達成するため、下記の事業を行っています。



理事長 末松安晴

〈 高柳健次郎賞 〉

電子科学技術に関する優れた研究により、わが国のこの分野の振興並びに産業の発展に貢献された方々の功績に報い、電子科学技術の更なる発展とその啓蒙に寄与することを目的とした賞です。

- 高柳健次郎賞 1件 表彰盾並びに記念のメダルを贈呈
- 高柳健次郎業績賞 2件 表彰盾並びに副賞として賞金を贈呈

〈 研究奨励賞 〉

将来の発展が期待される独創的な研究に取り組む若い研究者に助成し、わが国の電子科学技術の振興並びに産業の発展に寄与することを目的としています。

- 研究奨励賞 3名～5名 表彰盾並びに副賞として研究助成金を贈呈

〈 科学放送高柳賞 〉

科学技術の振興とその知識の向上に役立つ優れた科学放送番組を奨励し、番組内容の向上に寄与することを目的とした賞です。優れた科学放送番組を放送した放送局を表彰しています。

- 最優秀賞 1件 表彰盾を贈呈
- 優秀賞 2件 表彰盾を贈呈

〈 未来技術フォーラム 〉

電子科学技術の分野で次世代の発展に寄与する最先端の技術や話題をテーマに、年3回開催しています。但し、本年度は休止いたします。

〈設立許可〉

- 1984年(昭和59年) 10月31日 内閣総理大臣・国務大臣科学技術長官より、民法第34条の規定に基づく公益法人として許可を受く。
- 2010年(平成22年) 3月29日 内閣総理大臣より、公益法人認定法第44条の規定に基づく公益財団法人として認定される。
- 2010年(平成22年) 4月 1日 公益財団法人高柳記念電子科学振興財団として法人登記。
- 2011年(平成23年) 5月19日 公益財団法人高柳記念財団へ名称変更。
- 2013年(平成25年) 6月 5日 公益財団法人高柳健次郎財団へ名称変更。

受賞発表

高柳健次郎賞

研究奨励賞

科学放送高柳賞

2025年度 高柳健次郎賞・研究奨励賞・科学放送高柳賞 受賞者

高柳健次郎賞	<p>Takahata Fumio 高畑 文雄 博士</p> <p><研究業績>直交周波数分割多重通信技術の高度化と 地上デジタル放送への貢献</p>
高柳健次郎 業績賞	<p>Naito Sei 内藤 整 博士</p> <p><研究業績>テレビジョン技術の高度化に関する先駆的研究開発と実用化</p>
	<p>Yamasaki Toshihiko 山崎 俊彦 博士</p> <p><研究業績>魅力工学の先導的研究と研究コミュニティ構築への貢献</p>
研究奨励賞	<p>Kuruma Kazuhiro 車 一宏 博士</p> <p><研究課題>量子情報ネットワークに向けた ダイヤモンド電子スピン-フォノンインターフェースの開発</p>
	<p>Okada Ryoma 岡田 竜馬 博士</p> <p><研究課題>高感度リアルタイム電界イメージングシステムに向けた 微弱偏光変化検出高速イメージセンサの開発</p>
	<p>Ohara Masahiro 大原 正裕 博士</p> <p><研究課題>有機薄膜デバイスにおける分極構造の リアルタイム解析と性能最適化手法の確立</p>
科学放送高柳賞 最優秀賞	<p>● 番組名 「NHKスペシャル 絶海に眠る巨大洞窟 ～南大東島・驚異の水中世界～」 <放送局> 日本放送協会</p>
科学放送高柳賞 優秀賞	<p>● 番組名 「タコガール!!～わたしの中のもなか～」 <放送局> 南海放送株式会社</p>
	<p>● 番組名 「テレメンタリーPlus 森の名探偵となりのクマたち」 <放送局> 長野朝日放送株式会社</p>

高柳健次郎賞

「直交周波数分割多重通信技術の高度化と地上デジタル放送への貢献」

高畑 文雄 博士

早稲田大学

名誉教授

1949年生



学歴

1972年 3月 早稲田大学 理工学部 電気通信学科 卒業

1974年 3月 早稲田大学 理工学研究科 修士課程 修了

1980年 3月 工学博士(早稲田大学)

職歴

1974年 4月 国際電信電話(株)研究所 入社

1988年 4月 早稲田大学 理工学部 教授

2020年 4月 早稲田大学 名誉教授

主な受賞歴

2003年 電子情報通信学会フェロー

2005年 「情報通信月間」関東総合通信局長表彰

2008年 「平成20年度情報化促進貢献個人」総務大臣表彰「情報化促進部門」

2010年 日本ITU協会賞 功績賞

2016年 第67回 日本放送協会 放送文化賞

2017年 電子情報通信学会 通信ソサイエティ 優秀論文賞

2017年 第67回「電波の日」総務大臣表彰

2018年 映像情報メディア学会 名誉会員

〈主な業績内容〉

高畑文雄博士は、早稲田大学において、30年以上の長年にわたり、衛星通信、放送、固定通信、移動通信など多岐にわたる分野で無線伝送技術の研究を先導し、基礎学問の観点から無線通信の発展に貢献し、特に直交周波数分割多重(OFDM)技術の研究において大きな功績を残した。

1990年代から移動通信や放送分野での活用が検討されていたOFDM(直交周波数分割多重)技術の研究を主導した。移動体受信環境などにおいて電波の受信レベルが変動するフェージング環境下での伝搬路推定法の精度を高めるアルゴリズムを提案するとともに、同一チャンネル干渉下における伝送特性の改善技術の研究にも取り組み、効率的な情報伝送と無線周波数の有効利用に貢献した。伝送する情報の信頼性と効率性を確保するために重要な誤り訂正の性能向上にも取り組み、システムの効率化にも寄与する尤度演算量の低減法を提案した。

2010年頃からはOFDMへのMU-MIMO(マルチユーザMIMO)適用の研究にも取り組み、送信側でのスケジューリングやビームフォーミングの効率化、伝送特性の改善により、通信性能の向上に寄与する研究を行った。また、MU-MIMOで課題となるユーザ間干渉の抑圧に関して、高い電力効率と少ない演算量で実現できる優れた伝送技術を提案し、その新規性と高い有効性は高く評価された。

これらのOFDM技術の研究成果は、2003年に開始した地上デジタル放送の効率的なネットワーク基盤として生かされている。

さらに、MU-MIMOの研究成果は、無線LANや第5世代移動通信システム(5G)における通信速度の向上と安定化、快適な無線通信環境の実現に寄与している。

OFDM技術以外の分野でも、衛星通信分野の研究を主導するなど、無線通信技術の発展に大きく貢献した。低軌道周回衛星(LEO)について効率的な配置の導出法を提案するなど、衛星コンステレーションによる通信サービスの実現を見越した先駆的な研究を進めた。デジタル変復調の基礎から伝搬環境を模擬した計算機シミュレーションの手法までを網羅的に解説した著書「ディジタル無線通信入門」は、現在でも無線通信分野を専門とする学生や研究者らにバイブルとして愛読されている。

学会活動では、電子情報通信学会衛星通信方式研究専門委員会顧問、映像情報メディア学会会長などを歴任し日本における無線通信技術の発展に大きく貢献した。行政機関における活動では、総務省情報通信審議会情報通信技術分科会ITU-R部会 地上業務委員会の主査として第4世代携帯電話(4G)システムに関する日本提案のとりまとめで貢献した。そのほかにも情報通信技術分科会委員などを歴任した。

以上、高畑文雄博士は、無線通信分野の研究に一貫して取り組み、OFDM技術の発展に貢献するとともに、公的活動においても尽力し、放送を含む無線通信技術の発展に多大な功績を残した。

高柳健次郎業績賞

「テレビジョン技術の高度化に関する先駆的研究開発と実用化」

内藤 整 博士

株式会社KDDI総合研究所 取締役執行役員副所長 1971年生



学歴

1994年3月 早稲田大学 理工学部 電子通信学科 卒業
1996年3月 早稲田大学大学院 理工学研究科 電気工学専攻 修士課程修了
2006年9月 早稲田大学大学院 国際情報通信研究科 博士課程修了、博士(国際情報通信学)

職歴

1996年 国際電信電話株式会社(現 KDDI株式会社)
2010年～ 株式会社KDDI研究所(現 株式会社KDDI総合研究所) 超臨場感通信グループリーダー
2020年～ 株式会社KDDI総合研究所 執行役員(メディアICT部門担当)
2022年～ 株式会社KDDI総合研究所 執行役員(XR部門担当)
2025年～ 株式会社KDDI総合研究所 取締役執行役員副所長

主な受賞歴

1999年3月 電子情報通信学会 学術奨励賞 1999年9月 情報処理学会 山下記念研究賞
2000年5月 映像情報メディア学会 鈴木記念賞 2002年12月 映像情報メディア学会 研究奨励賞
2003年、2005年 映像情報メディア学会 ハイビジョン技術賞
2009年、2011年 映像情報メディア学会 映像情報メディア未来賞 次世代テレビ技術賞
2014年 映像情報メディア学会 技術振興賞 進歩開発賞 2015年5月 日本ITU協会 国際活動奨励賞
2016年6月 電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ活動功績賞
2021年5月 映像情報メディア学会 フェロー
2022年12月 総務省 戦略的情報通信研究開発推進事業 研究開発奨励賞
2024年3月 電子情報通信学会 フェロー 2024年4月 公益財団法人通信文化協会 前島密賞

〈主な業績内容〉

内藤 整博士は、テレビジョン技術およびサービスの継続的な発展に寄与する独創性の高い研究開発に従事し、数多くの学術成果の創出、知的財産の確保、並びに実用化を成し遂げた。特に、テレビジョンの視聴デバイスが進化しテレビジョンの視聴スタイルが多様化していく中で、視聴者に驚きや感動を与えられるテレビジョン技術の確立を目指し、これまで革新的な取り組みを主導してきた。

具体的には、①超高精細映像符号化技術の開発と実用化、②通信・放送連携ワンセグ携帯端末の開発、③自由視点映像技術の開発と実用化において、以下のとおり、学术界・産業界に多大な貢献を果たした。

- ① 超高精細映像符号化技術の開発と実用化: 現在、インターネット動画として一般的に活用されているハイビジョンや8K 放送などで展開されているスーパーハイビジョンを対象とした超高精細映像符号化技術の開発において、数多くの功績を残している。8K の実用化試験放送が開始された2018 年よりも10 年前から、8K 放送に必須となる超高精細映像符号化技術の研究開発を推進し、国際標準方式ITU-T H.265/MPEG HEVC や、同方式をマルチアングル映像向けに拡張したMPEG MV-HEVC の規格化において多くの技術を提案した。2017年には本規格に準拠したリアルタイムコーデックの開発に成功し、8Kマルチアングル映像のリアルタイム伝送を実現した。
- ② 通信・放送連携ワンセグ携帯端末の開発: 現在では極めて身近となった、スマートフォンや携帯端末による動画視聴サービスについて、その黎明期を支えた携帯電話向け通信・放送連携サービスの視聴を可能とするワンセグ携帯端末の開発に携わった。具体的には、通信回線を利用したインタラクティブなコンテンツ連携処理を携帯電話の極めて限られた計算リソース上で行う端末実装技術をもとに、ワンセグ放送に対応した携帯端末を世界に先駆けて開発した。この実績はその後の携帯電話などにおけるワンセグ対応端末の市場展開に大きく貢献するとともに、現在では一般的となっている、スマートフォンによる動画視聴スタイルの礎を築いた。
- ③ 自由視点映像技術の開発と実用化: 没入感を追求したテレビジョンサービスの実現に向けて、スポーツイベントや音楽ライブなどで視聴者自身が好みの視点から映像を楽しむことが可能な、自由視点映像技術の開発に関わる成果を創出してきた。自らが考案した技術によって撮影条件の制約が大幅に緩和され、クロマキー撮影やカメラ操作が制限された状態での撮影など、厳しい条件を受け入れ難いスタジアムなどの屋外大空間での応用を可能にした。スポーツ中継でのリプレイ放映を目指したトライアルを重ねることで、画質と速度の両面において完成度を飛躍的に高め、その成果として制作された自由視点映像が地上デジタル放送の番組に活用されるに至った。加えて、同技術をスマートフォン向けの映像サービスに活用し、プロ野球の試合では5G(第5 世代移動通信システム)の回線を利用した映像配信実験に成功し、Jリーグ公式戦ではスタジアム観戦の体験価値を向上させるツールとして商用導入された。

以上のとおり、内藤整博士は、テレビジョンの多様な視聴スタイルに応じた革新的なテレビジョン技術の研究開発と国際標準化を進めると共に、実証システム開発および商用展開を通じてテレビジョンサービスの発展に寄与した。

高柳健次郎業績賞

「魅力工学の先導的研究と研究コミュニティ構築への貢献」

山崎 俊彦 博士

東京大学 大学院情報理工学系研究科・教授 1976年生



学歴

1999年3月 東京大学工学部電子工学科卒業
2001年3月 東京大学工学系研究科電子情報工学専攻修士課程修了
2004年3月 東京大学工学部研究科電子工学専攻博士課程修了、博士(工学)

職歴

2004年～2006年 東京大学大学院新領域創成科学研究科助手
2006年～2009年 東京大学大学院情報理工学系研究科講師
2009年～2022年 東京大学大学院情報理工学系研究科准教授
2011年～2013年 米国コーネル大学客員研究員(Visiting Scholar)
2022年～現在 東京大学大学院情報理工学系研究科教授

主な受賞歴

2007年3月 電子情報通信学会学術奨励賞
2009年5月 映像情報メディア学会丹羽高柳賞論文賞
2017年2月 船井情報科学振興財団船井学術賞
2023年3月 電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術賞)
2025年6月 ACM ICMR Best Paper Award

〈主な業績内容〉

「魅力工学」とは、人の感性・共感などの主観的な嗜好・判断を計算科学的に分析し理解・再現することをコンセプトとする研究領域であり、山崎博士が名付けた研究である。魅力工学の英名である”attractiveness computing”は、Bing 検索で0 から548,000 件もヒットする新たな概念となっている。

1. 人のコミュニケーションの評価・分析に関する研究

人と人とのコミュニケーションやメッセージ発信を評価し、向上のためのフィードバックを行う研究を世界に先駆けて行った。マルチモーダル分析によるオーラルプレゼンテーションの印象予測では、プレゼンテーションが聴衆に与える印象を説得力、印象度など14 種類の尺度で評価し、時系列的な改善ポイントを示すことを可能とした。技術の新規性は、時には1 時間以上にも及ぶ膨大なテキストや音声进行分析可能にし、2つのモダリティを効果的に扱える学習モデルを提案した点にある。この研究は、その後、オンライン面接における人材評価、記者会見トレーニング、チャットシステムにおける精神疾患の見極めや改善支援など様々な分野へと発展した。

2. SNS における人気獲得に関する研究

SNS の人気獲得のメカニズム分析について、国際的に先駆的な研究を複数行った。SNS の閲覧数やいいね数を social popularity score と定義して分析する研究は、博士が提案した研究領域であり、Bing 検索では1 万件以上ヒットする概念となった。現在でも、博士の論文が一番上に掲載される。SNS の人気を分析するだけでなく、ハッシュタグ推薦によって人気度を向上させる技術を世界で初めて提案し、SNS 上での実投稿実験で閲覧数を2.5 倍以上に増やせることを示した。この成果は国内外のメディアで大きく取り上げられた。これらの研究成果は、複数の企業にライセンス提供され、社会実装に及んでいる。

3. 多彩な異分野連携・産学連携

学術的に最先端であるだけでなく、有機的な産学連携・社会還元につながっている。通算で40社以上との共同研究、15 件以上の知財のライセンス提供 (いずれも2025 年9 月現在)を行っており、複数の実サービスへと発展した。これらの過程で博士研究員および博士課程学生25 名以上の育成も行った。さらに、広告・デザイン・PR・不動産などにおいて魅力工学に関する問題意識を共有する様々な領域の研究者らとのコミュニティの構築・発展にも尽力し、国内外で研究会や国際ワークショップの立ち上げを先導した。このように、候補者は学術的に新しい課題を定義し開拓しただけでなく、コミュニティの構築と先導、研究成果の社会還元を行うなど、情報通信分野の学術への貢献が目覚ましい。

研究奨励賞

● 研究課題



「量子情報ネットワークに向けた

ダイヤモンド電子スピン-フォノンインターフェースの開発」

車 一宏 博士

東京大学 先端科学技術研究センター 助教（工学博士） 1991年生

〈 研究概要 〉

量子コンピュータや量子情報ネットワークの実現は、既存の計算・通信分野に革新をもたらし、次世代の高度情報化社会を支える重要な技術となる。そのため、それらを構成する量子情報技術の開発が強く求められている。中でも量子インターフェースの開発は量子情報ネットワークの基盤技術として不可欠であり、これまで多様な量子プラットフォームの研究が進められてきたものの、依然としてスケーラブルかつ集積可能な固体量子情報プラットフォームの実現が課題となっている。

本研究では、量子情報ネットワークの基幹技術として期待されるダイヤモンド中のカラーセンターを用いた電子スピン-フォノンインターフェースに着目し、固体集積型量子情報プラットフォームの基礎研究を行う。特に、ダイヤモンドに微細加工で形成したナノ構造を活用することで、カラーセンターの電子スピンとフォノンの相互作用を高精度に制御する技術を開拓し、量子情報ネットワークに向けた革新的な量子インターフェースの実現を目指す。

● 研究課題



「高感度リアルタイム電界イメージングシステムに向けた

微弱偏光変化検出高速イメージセンサの開発」

岡田 竜馬 博士

奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 助教（工学博士）1997年生

〈 研究概要 〉

Beyond5G/6Gなどの次世代移動通信では、THz波の利用が計画されている。THz波は、その指向性の高さを活かし、局所的に電波を集中させ、混信を回避して通信を行うことが想定される。そのため、通信状況に応じて出力強度、方向が刻一刻と変化するため、リアルタイム観察による多面的な評価が重要となる。

本研究では、電気光学(EO)結晶とイメージセンサを組み合わせ、高周波電界分布を高感度かつリアルタイムに可視化するために、高速撮像とチップ内信号処理を実現する専用の偏光イメージセンサおよびイメージングシステムを開発を行う。EO結晶の一次電気光学効果によって生じる複屈折変化は非常に微弱である。この偏光変化を、独自に設計した偏光イメージセンサに一樣偏光子を重ねた、二重偏光子構造に基づく微弱偏光イメージングシステムで撮像する。本システムの完成により、Beyond 5G/6Gに向けた通信状況のリアルタイムかつ多面的な評価が可能となる。

研究奨励賞

● 研究課題



「有機薄膜デバイスにおける分極構造のリアルタイム解析と
性能最適化手法の確立」

大原 正裕 博士

信州大学 工学部 電子情報システム工学科 助教（理学博士）1998年生

〈 研究概要 〉

近年、有機半導体薄膜を用いた電子デバイスは、ディスプレイや太陽電池など幅広い分野で応用が進んでいる。しかし、真空蒸着された薄膜に生じる自発配向分極(SOP)がデバイス性能に大きく影響することが知られているにもかかわらず、その定量的評価や最適化は十分に進んでいない。大原博士はこれまでに、独自に開発した「回転型 Kelvin probe装置」により成膜中の表面電位をリアルタイムで測定する技術を確認し、分極構造の詳細な解析を可能にしている。さらに、蒸着を間欠的に行うことで分極の強弱や極性を自在に制御する「間欠蒸着法」を提案し、同一材料であっても分極状態を作り分けられることを実証している。

本研究では、デバイス構造全体にわたる分極分布を評価し、電気特性との相関を明らかにすることで、性能最適化のための定量的指標を提示する。これにより、有機 EL の高効率化や有機太陽電池・トランジスタの性能向上に寄与するとともに、分極構造を積極的に利用した新しい動作機構を持つデバイスの創出を目指す。得られる知見は、産業応用に直結する品質管理技術にも展開可能であり、有機エレクトロニクス分野の発展に大きく貢献することが期待される。

研究奨励賞 研究成果論文

当財団では、研究奨励賞贈呈者に対して、受贈後の2年間での研究成果について報告をお願いしています。

報告された研究成果論文は、当財団のホームページで公開いたします。

本年度は、2022年度贈呈者の研究成果論文をホームページに公開いたしました。

岡 弘樹 博士（大阪大学 大学院工学研究科 テニユアトラック 助教（工学博士）1994年生）

● 研究課題 「超スマート社会の電子科学技術を支える環境適合な有機電池の創製」

HIRSCHBERGER Maximilian 博士（東京大学 工学部物理工学科准教授（博士）1987年生）

● 研究課題 「コンピュータホログラフィによる超高分解能4次元計測システム」

ホームページ <https://takayanagi.or.jp> 研究奨励賞 をご参照ください。

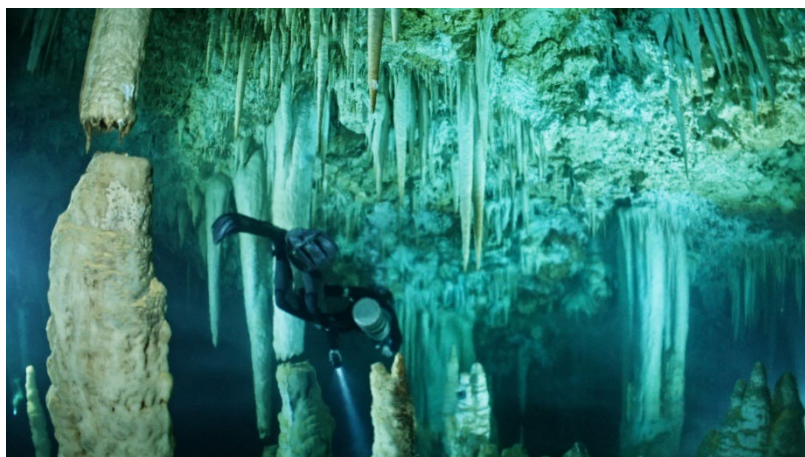
科学放送高柳賞 最優秀賞

番組名 「NHKスペシャル 絶海に眠る巨大洞窟

～南大東島・驚異の水中世界～」

●放送局:日本放送協会

●放送日:2025年8月24日(49分間)



白の洞窟を探検する調査隊

2024年、世界の科学者や探検家たちを驚かす発見があった。沖縄本島の東360キロにある南大東島で、大規模な水中洞窟が見つかったのだ。謎に包まれた、その地下空間は、まさに“日本最後の秘境”。発見以降、一躍、世界中の探検家や地球環境科学の専門家たちの注目を集めている。今回NHKは、調査探検プロジェクトに同行。最新鋭の8K水中カメラで前人未踏の水中世界の撮影に挑んだ。一切の光が差し込まない漆黒の闇の中から浮かび上がったのは、数万年の眠りから覚めた、息をのむほど壮麗な自然の傑作だった。さらに最新鋭のフォトグラメトリ技術で、学術的にも貴重な地下空間の全貌を再現。洞窟の内部では、固有に進化したと考えられる未知の生物も発見。

東京大学と共同で行った貴重な鍾乳石のサンプル解析からは、5000万年という途方もない年月をかけた地球のダイナミックな営みが見えてくる。

科学放送高柳賞 優秀賞

番組名 「タコガール!!～わたしの中のもなか～」

●放送局:南海放送株式会社

●放送日:2025年5月24日(47分間)



“なつつん”はタコ大好き高校生。タコの研究がしたくて愛媛県立長浜高校に越境入学しました。そこは魚好きの個性派たちが集まる、日本唯一の水族館部がある高校です。校舎の中で水の生き物を飼育し、毎月1回、一般に公開。部員たちはそれぞれ担当の水槽を持ち、魚たちの世話をしています。“なつつん”は研究班に所属し、タコ水槽を作るなど充実した日々。お気に入り、2年生の秋、漁師さんにもらったマダコの「もなか」です。年齢不詳のオス、名前を呼ぶと触手で応える関係になりました。そのころ取り組み始めたのが「鏡像自己認知」、鏡を用いたタコの自己意識を

調べる研究です。長高水族館は1999年にスタートして25年目に。豪雨災害で被災しても、地元の人たちのため休まず公開を続けてきました。しかし、設備の老朽化で魚たちに被害が。そんな中、部員たちの訴えが実り、水族館の引っ越しが決まります。そして2024年春、魚たちのお引っ越しが始まりました。愛する「もなか」も広い水槽へ。その時、思いもよらぬ事件が発生します。一方、“なつつん”の「鏡像自己認知」研究に大きな進展が。憧れの大学教授と出会う機会も生まれ、彼女の進路に大きな影響を及ぼします。小さな命と向き合い成長する高校生の物語です。

科学放送高柳賞 優秀賞

番組名「テレメンタリーPlus 森の名探偵となりのクマたち」

●放送局：長野朝日放送株式会社

●放送日：2025年8月11日（61分間）



撮影：宮崎学

長野県の伊那谷を拠点に、様々な野生動物の写真や映像を撮影している宮崎学さん。

「自然界の報道写真家」として、普段見る事ができない生き物の意外な姿をとらえ、そこから人間社会の「イマ」を考察している。

森を歩いて50年以上、わずかなヒントから被写体となる動物の動きを読むことから、

人呼んで「森の名探偵」。

人里への出没が相次ぐツキノワグマもテーマのひとつ。

クマたちは、日ごろから人を意識して暮らしているようだ。人間社会とぎりぎりのところで生きるその

知恵は、母グマから子グマへと教えられ、代替わり

するたびに大胆になっている。宮崎学さんは最近気になる事があるという。

クマ・シカ・サル・イノシシなど様々な野生動物が脚を失ったり、ケガをしている姿で撮影されているのだ。

その背景には何があるのか？そこから人間との危うい関係が浮かび上がる。宮崎学さんの撮影した映像や画像を通して見えてくる野生動物と人間との「イマ」とは？

放送期間／2024年9月1日～2025年8月31日 ■ 応募放送局／8局 ■ 応募番組数／12番組

入賞番組の一般公開

本年度の入賞番組は、製作局の了解の上、公益財団法人放送番組センターが運営する、放送番組専門の公開施設「放送ライブラリー」において、後日、一般に無料で公開することにしております。

◆放送番組専門の公開施設「放送ライブラリー」のご案内

- 場所 横浜情報文化センター 8F
神奈川県横浜市中区日本大通11 TEL.045-222-2828
(交通アクセス) みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口(情報文化センター口)直結
JR根岸線・横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩10分
- 開館時間 10時～17時(視聴受付は、閉館30分前まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は、次の平日)、年末年始

公益財団法人番組放送センターの「放送ライブラリー」は、放送法に基づく、わが国唯一の放送番組専門のアーカイブ施設であり、NHKと民放のテレビ、ラジオ番組とCMを公開しています。

詳細は、ホームページ <http://www.bpcj.or.jp/> をご参照ください。

歴代受賞一覧

高柳健次郎賞

研究奨励賞

科学放送高柳賞

■ 高柳健次郎賞・受賞者一覧

年 度	氏 名	受 賞 時 の 所 属 ・ 職 名	
2024 年	川上 彰二郎	株式会社フォトニックス	創業者・技術顧問
2023 年	西澤 台次	日本放送協会 放送技術研究所	元所長
2022 年	原島 博	東京大学	名誉教授
2021 年	秋葉 重幸	株式会社 KDDI 研究所	元 代表取締役所長
2020 年	青 山 友 紀	東京大学	名誉教授
2019 年	福 島 邦 彦	(一財)ファジイシステム研究所	特別研究員
2018 年	吉 野 武 彦	日本放送協会	元 専務理事・技師長
2017 年	須 崎 渉	大阪電気通信大学	名誉教授
2016 年	内 田 龍 男	東北大学	名誉教授
2015 年	宮 原 秀 夫	大阪大学	元 総長
2014 年	大 場 吉 延	日本放送協会	元 理事
2013 年	白 井 克 彦	放送大学学園	理事長
2012 年	安 田 浩	東京電機大学 未来科学研究科	委員長・教授
2011 年	泉 武博	日本放送協会 放送技術研究所	元 所長
2010 年	青 木 利 晴	株式会社 NTT データ	元 社長
2009 年	相 磯 秀 夫	東京工科大学	理事・前学長
2008 年	金 子 尚 志	日本電気株式会社	名誉顧問
2007 年	長谷川 豊明	日本放送協会	元 専務理事・技師長
2006 年	辻 井 重 男	情報セキュリティ大学院大学	学長
2005 年	立 川 敬 二	独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	理事長
2004 年	安 田 靖 彦	早稲田大学 理工学部	教授
2003 年	嵩 忠 雄	大阪大学	名誉教授
2002 年	中 村 好 郎	日本放送協会	元 副会長
2001 年	中 原 恒 雄	住友電気工業株式会社	特別技術顧問
2000 年	長 尾 真	京都大学	総長
1999 年	林 宏 三	日本放送協会 放送科学基礎研究所	元 所長
1998 年	熊 谷 信 昭	大阪大学	元総長
1997 年	斎 藤 成 文	東京大学	名誉教授
1996 年	藤 尾 孝	大阪工業大学	客員教授
1995 年	岩 崎 俊 一	東北工業大学	学長
1994 年	野 村 達 治	日本放送協会	元 専務理事・技師長
1993 年	植之原 道行	日本電気株式会社	特別顧問
1992 年	岡 村 總 吾	東京電機大学	学長
1991 年	鈴 木 桂 二	長岡技術科学大学	名誉教授
1990 年	宇都宮 敏男	東京理科大学 理工学部	教授
1989 年	大 島 信太郎	国際電信電話株式会社	元 副社長
1988 年	瀧 保 夫	東京理科大学 基礎工学部	学部長
1987 年	平 山 博	早稲田大学 理工学部	教授
1986 年	尾 上 守 夫	株式会社 リコー	専務取締役
1985 年	坂 井 利 之	京都大学 工学部	教授
1985 年	樋 渡 涓 二	筑波大学 電子・情報系	教授

■財団設立からの累積受賞者 42 名（1985年度～2012年度 高柳記念賞）

■ 高柳健次郎業績賞・受賞者一覧

年 度	氏 名	受賞時の所属・職名	
2024年	杉浦 慎哉 久富 健介	東京大学 生産技術研究所 日本放送協会 放送技術研究所 新機能デバイス研究部	教授 部長
2023年	香川 景一郎 藤崎 好英	静岡大学 電子工学研究所 日本放送協会 放送技術研究所 空間表現メディア研究部	教授 チーフ・リード
2022年	高田 英明 藤沢 寛	長崎大学 情報データ科学部 日本放送協会 放送技術研究所 ネットサービス基盤研究部	教授 上級研究員
2021年	洗井 淳 平田 晃正	日本放送協会 放送技術研究所 空間表現メディア研究部 名古屋工業大学 先端医用物理・情報工学研究センター	上級研究員 センター長
2020年	甲藤 二郎 澤田 宏	早稲田大学 理工学術院基幹理工学部情報通信学科 日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所	教授 部長
2019年	岡田 健一 舟橋 正和	東京工業大学 工学院電気電子系 出光興産株式会社 電子材料部 電子材料開発センター	教授 所長付
2018年	高 村 誠 之	NTTメディアインテリジェンス研究所	主幹研究員
2017年	藤田 智成	NTTソフトウェアイノベーションセンタ 分散処理基盤プロジェクト	主任研究員
	星 沢 拓	日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノベーション統括本部	部長
	石 井 紀彦	日本放送協会 放送技術研究所 新機能デバイス研究部	上級研究員
2016年	稲 見 昌彦 島本 洋	東京大学 先端科学技術研究センター 日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部	教授 上級研究員
2015年	柏野 邦夫 西田 幸博	日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所 日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部	上席特別研究員 上席研究員
2014年	田中 祥次 松尾 義博	日本放送協会 放送技術研究所 伝送システム研究部 日本電気株式会社 メディアインテリジェンス研究所	上級研究員 主幹研究員
2013年	松村 欣司 高橋 敏	日本放送協会 放送技術研究所 日本電信電話株式会社 メディアインテリジェンス研究所	主任研究員 主席研究員
2012年	今井 亨 山田 悦久	日本放送協会 技術局 計画部 三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 映像情報処理技術部	副部長 主席技師長
2011年	川村 龍太郎 角尾 幸保	日本電信電話株式会社 未来ねっと研究所 日本電気株式会社 情報・メディアプロセッシング研究所	メディアイノベーション研究部長 主席研究員
2010年	岩館 祐一 長沼 次郎	日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部 NTTエレクトロニクス株式会社 デジタル映像事業本部	主任研究員 主事
2009年	藤井 哲郎 白川 千地 細川 洋潮	東京都市大学 環境情報学部 NTTスマートコネクト株式会社 出光興産株式会社	教授 取締役 電子材料開発C
2008年	丸山 裕孝 江藤 剛治 中村 淳	日本放送協会 放送技術研究所 近畿大学 理工学部 アプティナ・ジャパン株式会社	主任研究員 教授 代表取締役
2007年	川添 雄彦	日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所	主幹研究員
2006年	金澤 勝	日本放送協会 放送技術研究所	主任研究員
2005年	八島 由幸	日本電信電話株式会社 NTTサイバースペース研究所	主幹研究員
2004年	小池 康博	慶應義塾大学 理工学部	教授
2003年	佐々木 誠	日本放送協会 放送技術研究所	デジタルネットワーク部長
2002年	大塚 作一	株式会社NTTデータ 技術開発本部	コンテンツ管理技術グループ・部長
2001年	榎松 啓一 永真 理忠 土井 利忠	株式会社NTTDコム モード事業本部 松永真理事務所 ソニー株式会社	取締役 本部長 代表取締役 執行役員上席常務
2000年	加藤 久和 村瀬 洋	日本放送協会 技術局開発センター 日本電信電話株式会社 コミュニケーション科学基礎研究所	チーフエンジニア メディア情報研究部 Gリーダー
1999年	松山 介二 村修 二	富士通日立プラズマディスプレイ株式会 日亜化学工業株式会社	専務取締役 開発部 主幹研究員
1998年	小野 定康 斉藤 康敬	日本電信電話株式会社光ネットワークシステム研究所 キャノン株式会社 B製品事業本部	小野特別研究室 室長 常務取締役 本部長
1997年	篠原 紘一 村上 宏	松下電器産業株式会社 日本放送協会 放送技術研究所	AVC商品開発研究所 主担当 表示・光デバイス 部長
1996年	森田 健一 寺田 一章	株式会社東芝 オリンパス光学工業株式会社	常務取締役 取締役 第3事業部長
1995年	清水 宏紀 野村 武史	日本ビクター株式会社 TDK株式会社	取締役 ビデオ事業本部長 基礎材料研究所 部長
1994年	西脇 秀則 鷲塚 謙	三洋電機株式会社 ニューマテリアル研究所 シャープ株式会社 液晶事業本部	太陽電池研究室長 専務取締役 本部長
1993年	萩本 和男 村田 真澄	日本電信電話株式会社 伝送システム研究所 株式会社富士通研究所 マルチメディア研究所	光通信研究部 主幹研究員 テクノロジー研究部門長付
1992年	谷岡 健吉 土屋 裕	日本放送協会 放送技術研究所 浜松ホトニクス株式会社 中央研究所	映像デバイス研究部主任研究員 所長代理
1991年	木目 健治朗 藤原 淑男	三菱電機株式会社 電子商品開発研究所 ソニー株式会社 ビジネス&プロフェッショナル開発本部	開発第3部 第4グループマネージャー 本部長
1990年	秋山 郁男 藤原 慎司	日本電気株式会社 映像開発本部 松下電器産業株式会社 情報機器研究所	第一開発部・課長 入力デバイス開発室長
1989年	江藤 良純 大島 正毅	株式会社日立製作所 中央研究 工業技術院電子技術総合研究所	第5部 主管研究員 知能システム部 視覚情報研究室長
1988年	村上 仁己 廣田 昭	国際電信電話株式会社 上福岡研究所 日本ビクター株式会社	画像通信研究室長 取締役ビデオ研究所長

■財団設立からの累計受賞者(73件)77名(1986年度～2012年度 高柳記念奨励賞、1987年以前の受賞はホームページ参照)

研究奨励賞・受賞者一覧

(1984年度～2012年度 研究助成)

年度	氏名	受賞時の所属先		年度	氏名	受賞時の所属先	
第41回 2024年	宋 航 柯 夢南	東京科学大学 環境・社会理工学院	助教 准教授	第21回 2004年	棟安 実治 鷗殿 治彦	関西大学 工学部 電子工学科 茨城大学 工学部 電気電子工学科	助教授 助教授
第40回 2023年	小島 駿 鈴木 弘朗 常安 翔太	東京大学 生産技術研究所 岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域 大分工業高等専門学校 電気電子工学科	特任助教 助教 助教	第20回 2003年	出口 博之 井須 尚紀	同志社大学 工学部 電子工学科 三重大学 工学部	助教授 教 授
第39回 2022年	岡 弘樹 H.Maximilian	大阪大学 大学院工学研究科 東京大学 工学部物理工学科	助教 准教授	第19回 2002年	六車 仁志 木村 宏	芝浦工業大学 工学部 電子工学科 岐阜大学 工学部 電気電子工学科	助教授 助教授
第38回 2021年	青木 俊介 山田 駿介 若生 将史	名古屋大学 未来社会創造機構 東北大学 大学院工学研究科 神戸大学大学院システム情報学研究科	特任助教 助教 准教授	第18回 2002年	寺内 衛 西村 俊和 入江 聡 小林 春夫	広島市立大学 情報科学部 情報工学科 立命館大学 理工学部 情報学科 福井大学 工学部 材料開発工学科 群馬大学 工学部 電気電子工学科	助教授 助教授 助手 助教授
第37回 2020年	張 奕勁 當麻 真奈 永岡 章	東京大学 生産技術研究所 第一部 東京工業大学 工学院 電気電子系 宮崎大学 工学部 環境・エネルギー	助教 助教 助教	第17回 2000年	渡邊 高志 長田 康敬 岸田 悟 岩月 正見	東北大学 大学院 工学研究科 琉球大学 工学部 電気電子工学科 鳥取大学 工学部 電気電子工学科 法政大学 工学部 電気電子工学科	講 師 助教授 助教授 助教授
第36回 2019年	島村 耕平 孫 鶴鳴 西辻 崇	筑波大学 システム情報系構造エネルギー工学域 早稲田大学 理工学術院総合研究所 首都大学東京 システムデザイン学部	助教 次席研究員 助教	第16回 1999年	大森 裕 和田 修巳 山田 功	大阪大学 大学院 工学研究科 岡山大学 工学部 電気電子工学科 山形大学 工学部 電子情報工学科	助教授 助教授 助手
第35回 2018年	相澤 直矢 角江 崇 安田 充	九州大学稲盛フロンティア研究センター 千葉大学大学院工学研究院 関西学院大学 理工学部	准教授 助教 特命助教	第15回 1998年	横矢 直和 和田 智志 深見 正	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 東京農工大学 工学部 応用化学科 金沢工業大学 工学部 電気・電子系	教授 助手 助教授
第34回 2017年	藤 田 桂英 平 山 竜士 森 本 勝大	東京農工大学 大学院工学研究院 千葉大学 大学院工学研究院 富山大学 大学印理工学研究部	准教授 特別研究員 特命助教	第14回 1997年	笹尾 勤 鳥養 映子 浅田 雅洋	九州工業大学 情報工学部 電子情報工学科 山梨大学 工学部 電子情報工学科 東京工業大学 工学部 電気電子工学科	教 授 助教授 助教授
第33回 2016年	片宗 優貴 金子 健太郎 松本 圭介	九州工業大学 若手研究者フロンティアアカデミー 京都大学 大学院工学研究科 愛媛大学 大学院理工学研究科	特任助教 助教 助教	第13回 1996年	宮崎 正弘 白井 肇 荒川 薫	新潟大学 工学部 情報工学科 埼玉大学 工学部 機能材料工学科 明治大学 理工学部 情報科学科	教 授 助教授 助教授
第32回 2015年	安在 大祐 久保 亮吾 真部 雄介	名古屋工業大学大学院 工学研究科 慶應義塾大学 理工学部 電子工学科 千葉工業大学 情報科学部	助教 専任講師 准教授	第12回 1995年	荒川 泰彦 山本 節夫 奥村 次徳 小谷 一孔	東京大学 生産技術研究所 山口大学 工学部 機能材料工学科 東京都立大学 工学部 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科	教授 助教授 教授 助教授
第31回 2014年	榎本 洸一郎 片山 昇 高村 陽太	新潟大学大学院 自然科学研究科 東京理科大学 理工学部電気電子情報工学科 東京工業大学大学院 理工学研究科	助教 助教 助教	第11回 1994年	武藤 佳恭 林 真至 森迫 昭光 酒井 士郎	慶応義塾大学 環境情報学部 神戸大学 工学部 電気電子工学科 信州大学 工学部 徳島大学 工学部 電気電子工学科	助教授 助教授 助教授 教授
第30回 2013年	安井 隆雄 周 大江 西 祐希	名古屋大学 工学研究科 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 金沢工業大学 光電相互変換デバイス研究開発センタ	助教 助教 研究員	第10回 1993年	山本 眞司 若林 真一 田中 國昭 平井 有三	豊橋技術科学大学 工学部知識情報工学系 広島大学 工学部 第二類 電気系 千葉大学 工学部 電気電子工学科 筑波大学 電子・情報工学系	教授 助教授 教授 教授 教授
第29回 2012年	延兼 啓純 田中 一晶 木村 貴幸	北海道大学大学院 理学研究院物理学部門 大阪大学 工学研究科 日本工業大学 工学部 電気電子工学	助教 特任助教 助教	第9回 1992年	蛭原 健治 篠田 庄司 田坂 修二 松田 基一	熊本大学 工学部 電子情報工学科 中央大学 理工学部 名古屋工業大学 工学部 電気情報工学科 長岡技術科学大学 工学部 電気系	教授 教授 教授 教授 教授
第28回 2011年	村岡 貴博 井上 亮文 鈴木 健仁	東北大学 多元物質科学研究所 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 茨城大学 工学部 電気電子工学科	助教 講師 助教	第8回 1991年	新井 宏之 白石 和男 半谷 精一郎 渡辺 治	横浜国立大学 工学部 電子情報科学科 宇都宮大学 工学部 電気電子工学科 東京理科大学 工学部 電気工学科 東京工業大学 工学部 情報工学科	助教授 助教授 助教授 助教授
第27回 2010年	石淵 久生 山口 実靖 宮崎 大介	大阪府立大学 大学院工学研究科 工学院大学 情報通信工学科 大阪市立大学 大学院工学研究科	教授 准教授 准教授	第7回 1990年	伊藤 彰義 岡野 光治 橘 邦英 根本 幾	日本大学 理工学部 電子工学科 東京大学 工学部 物理工学科 京都工芸繊維大学 工芸学部電子情報工学科 東京電機大学 理工学部	教授 教授 教授 教授 助教授
第26回 2009年	長谷川 浩 海老原 聡 野村 孝徳	名古屋大学 大学院工学研究科 大阪電気通信大学 工学部 和歌山大学 システム工学部 メカトロニクス学科	准教授 准教授 教授	第6回 1989年	加藤 誠巳 小松 尚久 寅市 和男 三橋 涉	上智大学 理工学部 電気・電子工学科 早稲田大学 理工学部 電子通信学科 筑波大学 電子・情報工学系 電気通信大学 電子情報学科	教授 講師 教授 助手
第25回 2008年	水柿 義直 多田 和也 石塚 洋一	電気通信大学 電気通信学部 兵庫県立大学 大学院工学研究科 長崎大学 工学部 電気電子工学科	准教授 准教授 准教授	第5回 1988年	浅田 邦博 吉田 雄二 小柴 正則 大津 元一	東京大学 工学部 電子工学科 名古屋大学 工学部 情報工学科 北海道大学 工学部 電子工学科 東京工業大学 総合理工学研究科	助教授 教授 教授 助教授
第24回 2007年	谷井 孝至 白谷 正治 岡野 好伸	早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 九州大学 システム情報科学研究院 武蔵工業大学 知識工学部 ネットワーク工学科	准教授 教授 准教授	第4回 1987年	美濃 導彦 白鳥 則郎 山田 実 笹瀬 巖	京都大学 工学部 高度情報開発実験施設 東北大学 工学部 電気通信研究所 金沢大学 工学部 電気情報工学科 慶応義塾大学 理工学部 電気電気工学科	助手 助教授 教授 助手
第23回 2006年	渡邊 慎也	青山学院大学 理工学部 電気電子工学科	助手	第3回 1986年	小長井 誠 西川 博昭 大西 公平	東京工業大学 工学部 電気・電子工学科 大阪大学 工学部 電子工学科 慶応義塾大学 理工学部 電気工学科	助教授 助手 専任講師
第22回 2005年	中川 清 磯村 雅夫	香川大学 工学部 信頼性情報システム工学科 東海大学 電子情報学部 電気電子工学科	教授 助教授	第2回 1985年	坂内 正夫 広田 修 天野 英晴	東京大学 生産技術研究所 相模工業大学 情報工学科 慶応義塾大学 理工学部 電気工学科	助教授 助教授 助手

■ 財団設立からの累計受賞者(77大学130名)／累計助成金額 24,760万円 (1984年度以前は、ホームページをご参照ください)

■ 科学放送高柳賞受賞番組並びに放送局

(第28回～第43回 科学放送高柳記念賞／第44回科学放送 高柳健次郎賞)

回数/年度	受賞名	番組名	放送局名
55回 2024年	最優秀賞	「Q-1～U-18が未来を変える★研究発表SHOW～」	朝日放送テレビ株式会社
	優秀賞	「NHKスペシャル 映像記録 関東大震災帝都壊滅の三日間 前編・後編」	日本放送協会
	優秀賞	「Return To Flight H3ロケット 挑戦と挫折の2516日」	中京テレビ放送株式会社
	特別賞	「いまからサイエンス シリーズ」	株式会社BSテレビ東京
54回 2023年	最優秀賞	「NHKスペシャル 超・進化論 第1集 植物からのメッセージ～地球を彩る驚異の世界～」	日本放送協会
	優秀賞	「信州のがん最前線vol.22 進む医療 選べる時代に」	長野朝日放送株式会社
	優秀賞	「居間からサイエンス #1ペロブスカイト太陽電池」	株式会社BSテレビ東京
53回 2022年	最優秀賞	「NHKスペシャル「恐竜超世界 in JAPAN」」	日本放送協会
	優秀賞	「映像22「研究者法廷に立つ・特許の対価を問う理由」」	株式会社毎日放送
	優秀賞	「－駿河湾 最深部の王者“3つの謎”－」	株式会社テレビ静岡
52回 2021年	最優秀賞	「NHKスペシャル 被曝の森2021 変わりゆく大地」	日本放送協会
	優秀賞	「よみがえれ神の鳥 特別編」	長野朝日放送株式会社
	優秀賞	「ネアンデルタール人は核の夢を見るか～高レベル放射性廃棄物の行方～」	北海道放送株式会社
51回 2020年	最優秀賞	「チャンネル4 カネのない宇宙人 ～閉鎖危機に揺れる野辺山観測所～」	株式会社テレビ信州
	優秀賞	「iPS細胞が心臓病患者を救う～世界初の手術 実施までの軌跡～」	日本放送協会
	優秀賞	「クマとタマ ～軽井沢・ベアドッグの取り組み～」	株式会社長野放送
50回 2019年	最優秀賞	「NHKスペシャル 寝たきりからの復活 ～密着！驚異の「再生医療」～」	日本放送協会
	優秀賞	「ハイスクールは水族館！！」	南海放送株式会社
	優秀賞	「ガリレオX 宮大工千年の技 失われ行く工匠の知恵を守れ」	株式会社BSフジ
49回 2018年	最優秀賞	「パラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ「WHO I AM」森井大輝(日本／アルペンスキー)」	株式会社WOWOW
	優秀賞	「衝撃！未来テクノロジー 2030年世界はこう変わる」	株式会社BSテレビ東京
	優秀賞	「NHKスペシャル シリーズ古代遺跡透視 大ピラミッド発見！謎の巨大空間」	日本放送協会
48回 2017年	最優秀賞	「カムイの鳥の軌跡 ～オオジシギ2つの物語～」	北海道テレビ放送株式会社
	優秀賞	「ゴミノヒカリ～未来を照らすアルミゴミ発電～」	株式会社チューリップテレビ
	優秀賞	「村山斉の宇宙をめぐる大冒険」	日本放送協会
47回 2016年	最優秀賞	NHKスペシャル「ミラクルボディー 世界最強の人魚たち」	日本放送協会
	優秀賞	カンブリア宮殿「世界が驚いた新素材革命！人口モ糸&石から作る「魔法の紙」」	株式会社テレビ東京
	優秀賞	「野生のいのち 死の連鎖」	北海道テレビ放送株式会社
46回 2015年	最優秀賞	SBS防災特別番組「富士山鳴動すー火の山の危機と予知ー」	静岡放送株式会社
	優秀賞	「トキ 新世界を生きる」	株式会社新潟放送
	優秀賞	NHKスペシャル「腸内フローラ～解明！驚異の細菌パワー～」	日本放送協会
45回 2014年	最優秀賞	NHKスペシャル「アルツハイマー病をくい止めろ！」	日本放送協会
	優秀賞	テレビ東京系列「カンブリア宮殿」ノーベル賞御用達！「光の技術を極める超絶企業」	株式会社テレビ東京
	優秀賞	TOYAから明日へ！「氷の島のメッセージ」～グリーンランド温暖化の最前線から～	北海道テレビ放送株式会社
44回 2013年	高柳健次郎賞	未来世紀ジパング～”アルマ展望台”プロジェクト	株式会社テレビ東京
	奨励賞	NHKスペシャル「世界初撮影！深海の巨大イカ」	日本放送協会
	奨励賞	生命38億年スペシャル・最新遺伝子ミステリー「人間とは何だ・!？」	株式会社TBSテレビ
43回 2012年	高柳記念賞	NHKスペシャル「宇宙の渚」第1集・謎の閃光 スプライト	日本放送協会
	奨励賞	KBSふるさとスペシャル「未来を回せ～富山発・小水力発電の可能性～」	北日本放送株式会社
	奨励賞	「風を集めて”レンズ風車”未来への挑戦」	RKB毎日放送株式会社
	奨励賞	コズミック フロント ～発見！驚異の大宇宙～「迫りくる太陽の異変」	日本放送協会

第42回2011年以前の受賞番組・放送局は、ホームページ(<https://takayanagi.or.jp>)科学放送高柳賞をご参照ください。
第1回～第27回 科学放送振興協会 主催(うち、第16回～第27回 高柳記念財団 後援) / 第28回～ 高柳記念財団・高柳健次郎財団 主催

■役員名簿

理事	末松 安晴(非常勤)	理事長 東京工業大学 名誉教授
	後藤 敏(非常勤)	早稲田大学 名誉教授
	寺田 健二(非常勤)	日本放送協会 理事・技師長
	篠原 弘道(非常勤)	日本電信電話株式会社 相談役
	榎並 和雅(非常勤)	国立研究開発法人 情報通信研究機構 元理事
	古屋 一仁(非常勤)	専務理事
	坂井 勝則(非常勤)	前専務理事
	鶴田 雅彦(常 勤)	事務局長
評議員	餌取 章男(非常勤)	科学ジャーナリスト 京都先端科学大学 総合研究所 特任教授
	吉野 武彦(非常勤)	日本放送協会 元専務理事・技師長
	桂 靖雄(非常勤)	パナソニック株式会社 客員・元代表取締役副社長
	寺崎 明(非常勤)	一般財団法人 情報通信振興会 理事長
	小松 弥生(非常勤)	独立行政法人 国立美術館東京国立近代美術館 館長
	豊中 俊榮(非常勤)	株式会社TBSテレビ 社長室顧問
	松崎 淳嗣(非常勤)	株式会社国際技術顧問事務所 代表取締役
	高柳 美香(非常勤)	名古屋外国語大学 現代国際学部教授
監事	飛田 和男(非常勤)	株式会社ネクストジェン 元常勤監査役
	森川 征治郎(非常勤)	税理士

■委員名簿

〈選考委員会〉

- ・電子科学技術の分野で独創的な研究に取り組む若い研究者への研究奨励賞の選考
- ・電子科学技術の分野で優れた研究業績により、科学技術並びに産業の発展に貢献された方々の功績に対する高柳健次郎賞・同業績賞の選考

委員長	後藤 敏	早稲田大学 名誉教授
委員	荒井 滋久	東京工業大学 名誉教授
	相澤 清晴	東京大学 情報基盤センター 特任教授
	神田 菊文	日本放送協会 放送技術研究所 所長
	兼清 知之	日本電信電話株式会社 サービスイノベーション総合研究所 所長

〈審査委員会〉

- ・国内の放送局でテレビ放映された優れた科学放送番組に対する科学放送高柳賞(最優秀賞・優秀賞)の審査

委員長	餌取 章男	科学ジャーナリスト 京都先端科学大学 総合研究所 特任教授
副委員長	奥野 花代子	神奈川県立生命の星・地球博物館 名誉館員
委員	榎並 和雅	独立行政法人情報通信研究機構 元理事
	菊池 邦子	株式会社日経サイエンス 編集委員
	穴倉 正展	産業技術総合研究所 地質調査総合センター 国内連携グループ長
	中西 友子	東京大学名誉教授 星薬科大学名誉教授・元学長
	並木 康臣	元日本ビクター株式会社 理事・技術本部技術戦略部長
	三木 直志	パタピット株式会社 常務取締役
	村垣 善浩	東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 副所長
	元村 有希子	株式会社毎日新聞社 元論説副委員長
	由利 伸子	有限会社サイテック・コミュニケーションズ 代表取締役

公益財団法人 高柳健次郎財団

〒102-0082 東京都千代田区一番町4番地5 ニューライフ一番町309

TEL: 03-3239-1207 FAX: 03-3262-3028

E-mail: tkinenz@oak.ocn.ne.jp

<https://takayanagi.or.jp>

Kenjiro Takayanagi Foundation

4-5-309, Ichiban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082 Japan

Tel: +81-3-3239-1207 Fax: +81-3-3262-3028